

## 西村大臣記者会見要旨

令和2年7月13日（月）16時55分～17時29分（34分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（冒頭大臣発言）お待たせいたしました。私からは冒頭、TPP11について申し上げます。本日16時から約30分間、ブルネイのアミン・リュ首相府大臣兼第二財務経済大臣と電話会談をいたしました。このアフターコロナにおけるTPP11の意義を中心に幅広く意見交換を行いました。特に4点について共有いたしましたので、御報告をします。

第1点目。経済回復においてTPP11等を通じた自由貿易の推進が重要であり、TPPの高いレベルのルールを受け入れる国を、できるだけ広げていくことが重要であること。

2点目。TPP11がサプライチェーンの強靱化やデジタルの実装の観点から、アフターコロナの世界経済を進化させていく上で重要な役割を担うということ。

3点目。8月の第3回TPP委員会の成功に向け、引き続き日本とブルネイの間で緊密に協力していくこと。

そして4点目。ブルネイによるTPP11の早期締結に向けて国内手続を進めていくこと。

こうしたことについて認識を共有いたしました。引き続きTPP11における主要なパートナーであるブルネイとともに、ウィズコロナ、アフターコロナの時代において、緊密に連携をしていきたいと考えています。私からは以上です。

（問）今日も東京都内で3桁の感染者が出ているようでして、週明けに経済活動引き上げということですがけれども、改めて感染状況についてどう見られているか教えてください。

あわせて無症状の方がかなり出ているようですがけれども、全国にかかるGOTキャンペーンとかも始まる中で、感染拡大を防ぐために何が必要だと考えていらっしゃるか、改めて教えてください。

（大臣）本日の東京都の新規感染者の数は119名と報告を受けましたが、まだ詳細は調査中であるということで聞いております。昨日が206名。ここのところ200名を超える数字が出ており

ました。一喜一憂することなく、感染者の数が一定数出ていますので、危機感を持って対応していきたいと思っています。他方、昨日までの1週間で言いますと、夜の街関連が週の移動平均で34%、それから20代30代の週の移動平均が71%となっております。重点がわかっているわけでありますので、このバー、クラブなど接待を伴う飲食業への対策を強化していきたいと考えています。

さらに陽性率が5.9%ということもあり、重点的にバー、クラブなど接待を伴う飲食業の方に受けていただいていますので、当然高くなる分があります。新宿区の6月のデータを見ても、どうしてもこのバー、クラブなどの接待を伴う飲食業の方の陽性率が非常に高い数字になっていますので、そうした分を含めての数字であるわけですし、それから重症者も5名になっているということで、東京都の医療提供体制は余裕があるということで、逼迫している状況ではないということです。

直ちに緊急事態宣言を出すという状況にはないと、今日も専門家の皆さんと確認をしたところですが、ただ、これだけの方が出ていますので、しっかりと夜の街、いわゆるバー、クラブなど接待を伴う飲食業についての対策を、引き続き強化していかなくちゃいけないと考えています。

その上でさまざま感染者が増えている状況を見ますと、鹿児島島のショーパブであったり、あるいは小劇場、シアターモリエールであったり状況の分析を急いでいますが、やっぱり原点は3密回避。それとさらに言えば、3密の状況の中で換気が悪い。密閉というところと関連するわけですが、換気がやはりものすごく大事だということ。

最近、スーパーコンピューターの「富岳」でのシミュレーションからも、換気がよければシアターでも上に上がっていきましますし、散らばっていきますから、外に出していけるわけですので、換気が大事。それとプラスして言えば大声。演劇もそうですし、ショーパブもそうですけれども、3密の状況の中で、換気が悪い状況の中で大声を出すことが、さらにリスクを高めるということでもありますので、ぜひもう一度原点に立ち戻って、3密回避、換気をよくする。そして大声は避ける。このことを改めてお願いしたいというふうに思っています。

そして無症状の方が多い中でG。T。キャンペーンなど、県をまたぐ移動は今では自由になっているわけでありますけれど

も、当然この感染拡大防止策を徹底していただいた上で、経済活動との両立を図っていくということでもありますので、今申し上げたような、どんな状況においても3密回避、換気をいい状態にしておくこと、そして大声は避けること。このことをお願いしたいと思えますし、事業者の皆さんにはガイドラインをぜひ徹底していただく。当然人と人との距離、消毒、マスク、換気、こういったことの基本的な対策をぜひ講じていただきたいというふうに思います。

受け入れる宿泊施設の側も、来られた観光客の方に、宿泊される方に検温をしたり、体調を聞いて悪ければ、地域の医師会あるいは相談センターのほうにつないでいくということも大事だと思えますし、当然会食とか食事の場面もあると思えますけれども、ビュッフェなどは避けていただくこと。そして3密、換気、大声、こうしたことは避けていただくことが大事だと思います。

そして旅行者のほうも体調が悪い場合、何か違和感がある場合は絶対に外出を控えていただく。むしろ相談センターに電話していただいて、そして医師の指導を受けながらPCR検査を受けていただく、ということが大事だと思っております。当然外出を控える中で県をまたぐ移動も控えていただくということでもあります。

さらに言いますと、空港で検温も今行っています。羽田、成田で行っていると聞いておりますが、これをさらに徹底してもらいながら、飛行機の中もちろん3密回避というか、距離を取っていただいたり消毒とか工夫はしていただくんですけども、さらに機内それから新幹線の中、駅の構内、こういったところで今申し上げたような体調が悪い方は外出を控えていただくとか、さらに相談センターのほうに連絡をしていただくとか、3密を回避していただくとか、こういった基本的な事柄について放送をしっかりとやってもらおうということで、国交省と今調整をしているところであります。

新宿の小劇場、シアターモリエールでも体調の悪い方が2人出演していたというふうに報告を受けました。その方々から感染したのではないかと思います。演劇ですから、1人欠けるとそれができないということなのかもしれませんが、絶対に体調の悪い方は外出を控えるということ徹底していただきたいと思えます。さらに言えばこの小劇場では、楽屋とか密閉した狭

い空間にかなりの人が入っていたという報告も受けていますので、とにかく3密を回避して、換気、大声、これも気を付けていただくということが大事だと思います。体調の悪い方は外出を控えるということ。県をまたぐ移動も控えるということ。そうしたことについて交通関係の事業者にも協力をいただきながら、放送などをしていただいで、周知を図っていただければと考えています。

（問）官房長官が先日、東京都の問題と話されたことに対して、小池知事がG。T。キャンペーンが始まろうとしている中で、これは国の問題という発言をされているんですけども、これについての大臣の所見をお伺いできればと思います。

あと大臣は昨日、1都3県の経済圏、生活圏を考えた対策を検討されると話をされましたけれども、感染状況によっては1都3県では休業要請も選択肢に入ることなのかということと、あと今後、各都道府県知事が24条9項に基づいて、独自に要請をどんどん打ち出すケースについて、これについてはどのようにお考えかということをお聞かせください。

（大臣）G。T。キャンペーンとの関係では、今申し上げたことと重複しますが、お一人お一人が体調が悪ければ、ちよつとでも違和感があれば外出を控えていただく、移動も控えていただくということが大事だと思いますし、できるだけ早く相談してもらおうということが大事だと思っています。その上で感染防止策を徹底してもらいながら、お一人お一人が注意をしていく。あるいは事業者の皆さんには感染防止策を徹底していただく。そのために必要な費用については、中小企業の皆さんには持続化補助金で支援をしていきますので、消毒液やマスクやアクリル板やいろんなことで工夫してもらいながら、それぞれの観光施設でも対応していただきたいと思っています。そうした感染防止策を徹底していただくことで、経済活動との両立が図っていただけるということです。

そして原点に立ち戻って3密回避。そして特に換気をよくすることと大声を避ける。人と人との距離を取ることも大事です。シアターモリエールでもう1点言えば、終わった後に観客の皆さんとハグをしたり握手をしたりということをどうもやっていたようです。そういった報告を受けています。ですので絶対に人と人との距離を取るというのは原点ですから、3密を回避す

る。そして換気をよくする。大声は避ける。こういったことを徹底していただくことが大事でありますので、それぞれの場面場面で観光地に行っても、このことを守っていただくこと。

事業者の側もそういったことに注意していただいて、感染防止策を徹底していただくことで経済活動、社会活動との両立が可能になってきますから、そういったことをお願いをしたいというふうに思いますし、必要な経費については、中小企業の皆さんには持続化補助金で支援をしていきたいと思えます。これは地域の商工会や商工会議所窓口で受け付けておりますので、最大200万円まで支援があります。持続化給付金の200万円100万円とは別の補助金ですので、これも有効に活用していただければと思います。

その上で交通関係の事業者の皆さんにも、国交省に今調整をお願いしているところですが、そうした呼びかけ、体調の悪い方は外出を控えること、県をまたぐ移動を控えていただくこと、あるいは3密を回避していただくこと、こういったことを含めてアナウンス、周知を図っていければと考えているところですが、空港での検温なども引き続き徹底していければと考えています。

とにかく感染防止策を徹底していただきながら、社会経済活動との両立を図っていくということでありまして、我々の立場ではとにかく急所となっているバー、クラブなど接待を伴う飲食業、この対策を強化していくことが大事だというふうに思っています。

その上で、その関連で休業要請のお話だと思えます。現時点で緊急事態宣言のときのように、幅広い業種に休業要請をすることは考えておりません。今の急所は、ポイントは専門家の皆さんから何度も指摘されているとおり、バー、クラブなど接待を伴う飲食業の対策であります。したがって今の御質問も、こうしたバー、クラブなど接待を伴う飲食業についての休業要請についてどう考えていくか、ということだと思えますけれども、日々、専門家の皆さんとも議論を重ねています。

その上で申し上げますれば、まずは繰り返しになりますが、事業者の皆さんにガイドラインを徹底していただくこと。換気をよくするとか消毒とかマスクとか、大声を出さない、距離を開ける、アクリル板やフェースガードなども活用する。こういったことをまず徹底していただきたいと思えます。

さらにその上で埼玉県のように、特措法の24条9項に基づいて、こうした事業者、ガイドラインを守っている店舗を認証していく。要はマル適マークのように認証していくということ。配布をして、そしてまず守るように要請をし、そしてその上で守っているお店にはそうした認証をしていく。そして守っていない店舗に対しては、そこに行くことを控えていただく。利用者の皆さんに自粛をしていただく。この要請を行うこと。これは私は有効な手段だと思っております。さらに守っていない店舗に対して休業要請を行うことも、有効な手段の1つだと思えます。

混乱するとあれなので、もう一回言います。まず守るように要請をし、そして守っているところにはマル適マークのような認証を行っていき、守っていないところに休業要請を行うということ。そして守っていない店舗は利用することを控えていただく。いわば外出自粛を利用者の側に要請するという、こうしたことの組み合わせは有効な手段だと思っております。そして守れるように、持続化補助金で国としてはサポートをしていくということでもあります。

ややこしいですけれども、守るように要請をする。守っていない店に休業要請を行う。そして守っていない店には行かないようにしてもらおう。24条9項を使ってこういった要請を行っていくことは有効な手段、有効な組み合わせだと思っております。守っているところにはマル適マークのような認証を行っていくわけですから、利用者の側はわかるわけですので、こうしたことを組み合わせていくことは有効な手段だと思っております。

一方でこうした事業体に対して、ガイドラインを守っているか守っていないかにかかわらず、この業種について休業要請を行うことについては2つの視点があって。1つはある地域だけやると、その事業体のスタッフがほかの地域の店に移ることもあり得ますし、利用している側が、ある地域でやっていないなら、別の地域に遊びに行こうかということ、ほかの地域に移ってしまうということがあります。場合によってはそれで感染が広がることがあります。

それから専門家の皆さんのHIVなどの経験からすると、地下に潜ってしまうということもあり得ると指摘をされています。したがって行くとすれば当然、生活圈や経済圏も見ながら、首都圏でいえば首都圏全体であるとか、あるいは少なくとも東京

全体でやるとか、こういったことを地域の事情を含めて考えていかなければいけないと思います。

その上で先般、東京都そして新宿区、豊島区と一致しましたように、今は新宿区長、豊島区長が先頭に立って事業者との協力関係を築きながら、そして事業者の皆さんも従業員の方々に積極的にPCR検査を受けてもらえるように、ずっと今はそういった取り組みを進めていますので、東京都もそれを支援していくということでありまして、国としてもこうした取り組みをサポートしていきたいと考えています。

その上でしかしながら感染状況を見ながら、私はさっき申し上げたような24条9項に基づいてガイドラインの遵守、感染防止策を徹底してもらうことを要請したり、あるいは守れない店舗には行かないようにという要請を行うこと、これについてはやはり感染状況を見ながら、引き続き検討していきたいというふうに考えています。このことは先般の合意した紙にも、引き続き検討していくということでも明記をしてあります。近々に分科会を開いて、専門家の皆さんにも感染状況を改めて全体として分析していただいて、そして御意見をいただきたいと考えているところであります。

(問) 大臣がおっしゃったように、日々の数字に一喜一憂する愚かなことをずっと感じておるんですけれども、大臣のもとに119の母数としての検査件数というのは届いているんでしょうか。例えば明日300になったって、PCRの数は今日が1,000で、明日の母数が3,000だったら。それで結局それを一緒に言っていたきませんと。明日300になったら驚いて、200になったらというのをやっけていてもしょうがないと思うんですけれども、その辺についてぜひ御説明ください。というかそういう指導をしていただきたいと思います。

(大臣) 東京都では毎日発表しているというふうに承知をしていますが、4月の段階で、数百件からせいぜい800件900件のPCR検査の件数でありました。当時20%とか30%の陽性率があったわけです。最近では3,000件を超えるPCR検査を行っていますので、そういう意味で3,000件に対して陽性者の数が100件とか200件とか出ているということでもありますので、当然日々の陽性率もわかりますし、1週間の平均もわかるということです。基本的に毎日3,000件を超える検査を行っているとい

うふうに承知をしています。間に合えばグラフを出しますけれども、東京都のほうで日々発表しているものというふうに思いますし、必要があれば今後私の立場でも改めて説明したいというふうに思います。

東京都は今3,000件を超える検査を行っていますけれども、それで今は6,000件ぐらいまで検査ができる体制ができていますが、さらに1万件にふやすべく努力をされているということでもあります。これは補正予算の中でも、3兆円の医療関係の予算の中でもできますし、また、その中にPCR検査の検査体制の充実ということでは可能ですので、国としてもそうした都道府県のPCR検査体制については応援をしていくということになります。

ただ、この陽性率が今は4%か5%かになってきていることについては、当然リスクの高い業種、業態の皆さんが積極的に受けてもらっていること、それからそういった業種でない方であっても、症状がある方が相談に来られていますので、当然数値としては一般の人よりも高くなるということ、ぜひ御理解いただければというふうに思います。

6月の新宿区のデータで、いわゆるバー、クラブなど接待を伴う飲食店の方々の陽性率が30%強でありました。この数字をもって新宿区は30%以上だという報道も一部ありましたけれども、バー、クラブなどの接待を伴う飲食業の関係の皆さんですので、当然近い距離で会話をし、既にクラスターが発生しているところでもありますので、リスクが高いということで当然、高い陽性率になります。会社員等の方々が4%ということで発表されていますけれども、これも要は行かれたお客さんとか濃厚接触された方でもあります。また、症状があるから相談をされている方でもありますので、当然一般の方よりかは高い数字になりますので、そのことにしっかりと留意していただいて、数字を見ていただきたいというふうに思います。

現時点で確かに大幅に市中感染が広がっているという状況にはない、ということ専門家の皆さんもおっしゃっていますが、ただ、少し広がってきているのは事実であります。各区において少しずつふえてきている。あるいはこれだけの人数が出ていますので、当然、家庭内感染やさらに広がっている部分がありますので、警戒感、危機感を持って対応しなきゃいけないと思っていますけれども、全体として見ればそういった数字である



ことを御理解いただきたいというふうに思いますし、検査件数は4月ごろと比べて大幅に増加しているということです。

あともう1点。若い人が7割占めていますが、ただ、高齢者も、60歳以上の方も、6月の段階でも何%かおられます。1日全体で100人とか200人出たときに数%とはいえ、やっぱり何人かずつ60歳以上の方々が出てくると、当然積み重なってきますので、その中で重症者が出ないように対応していかなきゃいけないと考えています。病床は今のところ大丈夫ですけれども、やはり高齢者の感染された数がどの程度あるのかというのは、日々見ていかなきゃいけないと思っています。

(問) ちょっと細かいんですけども、屋内のイベントの条件緩和について、今は50%というギャップがあって、8月以降もそれが続くと。AIとか「富岳」を活用して、それを緩和できないかということ、大臣は以前の会見で、7月中に緩和できるのであれば、その目安を示すというふうにおっしゃっていたかと思うんですが、新宿の小劇場の集団感染が時期的なものに影響を与え得るのか、現時点での見通し、考え方を教えてください。

(大臣) 新宿のシアターモリエールの件は、分析を今詳細に行ってきています。先ほど申し上げたように30人ぐらいの感染が出ている中で、感染が演じているときに起こったものなのか。あるいは8畳程度と聞いていますが、狭い楽屋にかなりの人数が入って、そのときに起こっているのか。あるいは終了後に握手とかハグとかをしていますので、そういった場面で起こっているのか。演じているときには最前列の人はフェースガードをしていたというふうにも報告を受けています。換気の状態はどういう状況であったのか。人数は半分程度になっているというふうに聞いていますので、半分以下か半分程度になっていると思いますから、そういった状況を見きわめた上で、どういったことで感染が広がったのか、そのことについてはしっかりと分析を進めたいと思っています。

他方、前にも申し上げたとおり、「富岳」のシミュレーションでも、演じている人からは一定程度飛びますけれども、換気がよければそれは上に上がっていくということでありまして、最前列との距離さえ取っていれば大丈夫だと。あるいは座席に座っている人が咳をしたり何かしたときも、マスクをしていれ

ば、そして換気がよければ、それほど大きな影響はないという分析も出ていますので、今回のシアターモリエールの件も含めて詳細をしっかりと議論して、方向性を出していきたいと思っています。

ただ、当然、全体の感染状況も見ていかなきゃいけませんので、そういったことも頭に置きながら判断をしていくこととなりますし、クラシック音楽とロックコンサートとか、今回のようにやっぱり割と大きな声でやられていたようですから、当然そこも違いますので、そういったことも判断しながら、区別しながら検討は進めていきたいと考えています。

先ほどの点ですけれども、これを見ていただきたいんですけども。緑の線がPCRの検査数です。6月の前半も1,000件ぐらいやったわけですが、実は4月段階では数百件ぐらいのレベルです。曜日によって多少でこぼこあります。土日とかありますので、これは見ていかなきゃいけないんですけども、最近ではこちらの線です。3,000件ぐらいの件数を日々行っています。曜日のでこぼこは当然あります。週単位で見なきゃいけないんだらうと思いますけれども、その上で陽性率がこの%でありまして、6月の最初は緊急事態宣言を解除して、感染者は非常に少なかったですから、陽性者は低かった。最近はやっとここが上がってきて5%強ぐらいになってきているわけですが、この部分も積極的にリスクの高い人に受けてもらっていますので、当然高くなるということも配慮して考えなきゃいけないということです。

それから最近では抗原検査なども組み合わせていっていますので、プラスアルファで若干の数が上乘せされています。日々、基本的に3,000件程度は少なくとも行われているというふうには理解しています。4月は数百件程度で、そのときのやつを見ればわかるんですけども、陽性率は20%から30%と非常に高いものでありました。ですので3,000件程度行われていますけれども、これも先ほどから申し上げているとおり、リスクの高いところにはぜひ前広に幅広くPCR検査を行っていきたいと。戦略的にその分は拡充していきたいと考えているところでありま

す。先般、尾身先生からも提案をいただいて議論を進めておりますので、次の分科会でもこのあたりはしっかりと議論をして、例えば院内感染を防止するために、入院される患者さんとか手

術の前の患者さんにはPCR検査を今行っています。高齢者施設でも何かそういった取り組みができないのかとか、リスクが高いわけじゃないんですけれども、インパクトが大きい、重症化するリスクが大きい方々はたくさんいるということで、そのあたりでPCR検査を戦略的に広げていければと考えているところです。ありがとうございました。